

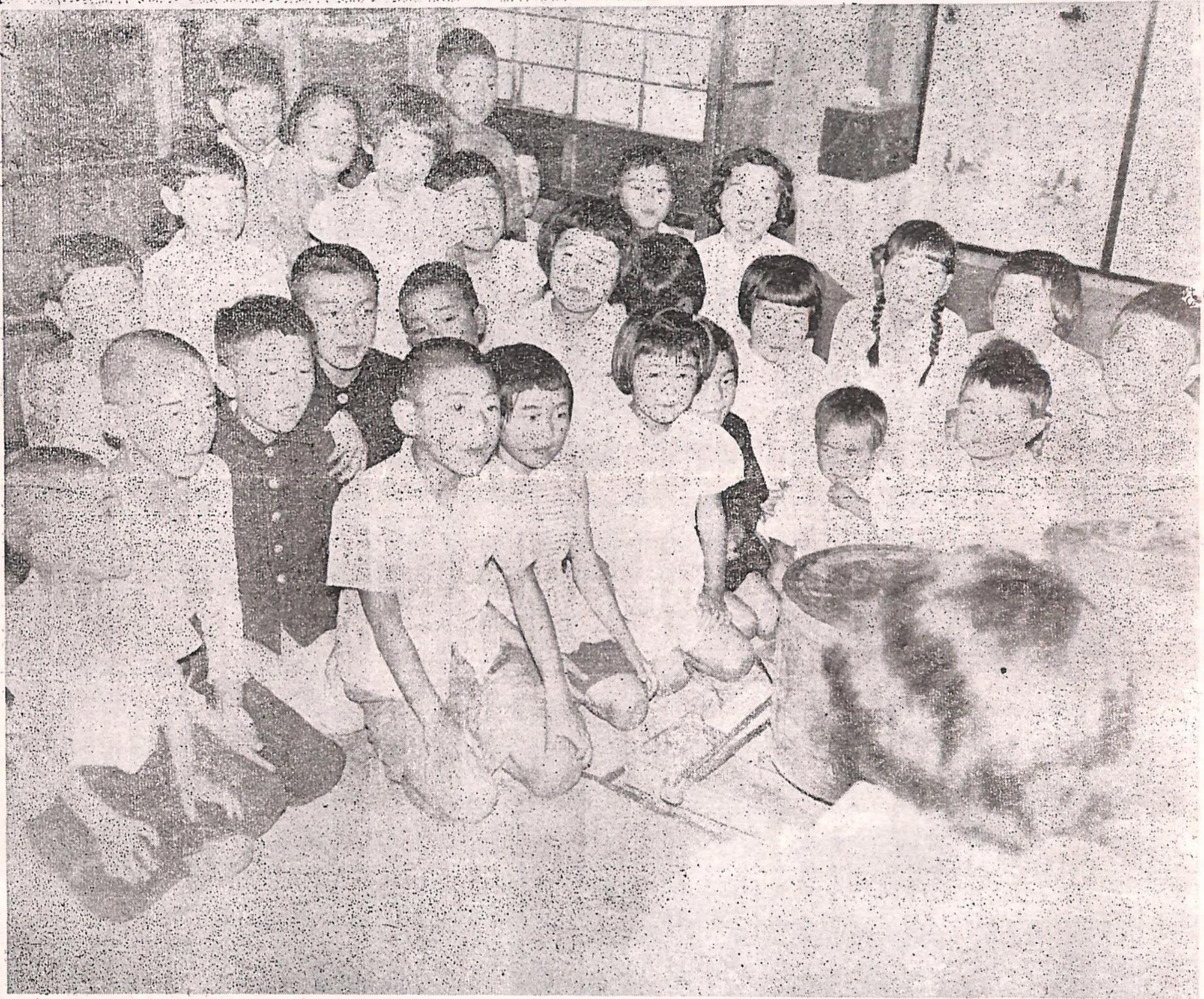
臨時特集號



発行所 青森県五所川原市役所  
電話(代)2・111  
発行兼編集人 経済民生部市民課  
印刷所 陸奥印刷株式会社

# 興隆の日曜学校を訪ねて

## 苦闘の開拓部落に輝ける朝ぼらけ



開拓部落といえは一応、山深く文化果てるの地を想像するのが世の常である。

ここ興隆開拓は五所川原市大字飯詰から東の方へのぼつて、くだつて、一、五軒、曲りくわつてはいるものの、バスもハイヤーも自由に通れる立派な道路がついていて、絶えずかけあしの文化がゆき通っている。

山鳩鳴き、牛が悠長な呼声をあげて歓迎する風情は開拓ならではの長閑なる自然詩である。

敗戦の蓋し子ともいうべきか、開拓部落が隨所に設けられてから早くも十有五年の才月が流れ、当興隆開拓も昭和二十三年に四十五戸二百名の開拓者此の地を安住の場所と定めてから、すでに十年になつてゐる、その間あるいは木の根ツ子につまり、石ころにころび泣いた夜もいくたびかあつたといわれていて、苦しい中にも意義ある十年でしたといつていた。

今ここを訪れる人々は一様にその名の示すとおり躍進の美しさを発見し、ただならぬ労苦と忍耐に自ら頭がさがるものである。

本県選出の三浦農林大臣はその農業政策について生産の増進は第二義として、生活の安定を第一義となす、と凡慮の私共をして、慎重な政策をかかげているが果して、隅のあたる農政はこの興隆開拓にいかなる方法で反映してくるか、郷土出身もあつてか大きな期待をかけている。

一方大人の勞苦をよそにこの子供達は児童憲章に制定された「自然を愛し、科学と芸術を尊ぶ」ようにみちびかれ、また、道徳的心情がつかはれる、よい環境のなかで育てられている。

日曜毎にやつて来る教会の菊池牧師を先生に今日も館山さんのお宅で、日曜学校が開かれている。

うるはしき朝も 静かなる夜も  
たべもの肴物をくださる神様

と聖歌が流れていた。  
小高い丘には古い家、新しい家がそれらの資力に添つか建てられている、そのヒサンを遊び場としていた子供達は、無心に国歌遊びにふけていたが聖歌を耳にして一目散に館山さん宅をめざして突走り、敬虔なおいのりの仲間に入った。





青年団婦人会の諸氏

にできるものと思う。又農家の事を考えても、この道路ができる事によつて四十分で青森へ行き、一日に何復もできるんです。往きには農産物を持ってゆき、帰りは乾物を運んで来て大変に好都合と思つています。私は再びこの道路を生かして、観光地も沿道にあることである。日曜祭日には約千五百名から二千名からの観光客が見えている現状で平日でも二、三百名は毎日、来て居るんです。此の方方はたいがい徒歩か自転車で行くものだから何んともいってしまふ。この道路を一日も早く完成してバスを通さなければならぬと痛切に感じるのであります。



佐々木 一昨年私が二、三の職員と一緒に梵珠山に登つた時、これは若山の斎藤太氏の案内で行つたんですが、十三の森を登見したんです。この事について先月の末東北大学の五十鈴先生が非常に重視して近日中に調査に来五すると云つて居るとか、私達の梵珠山、とうもろこし達が無駄ではない事を裏付けられまして非常にうれしく思つて居ります。詳しい事については、福士さんから一つお願い致します。

福士 あの盛は十三塚といつて全国に約二百位あります。そのあとにはお寺があつたそうでした。霊所となつて居ります。山の平坦地を利用して十三の塚がたてられ、お寺の土台石には鏡石といふ非常に貴重な石がうめてあるとか、日本には現在に発見されて居ないもので、発見されたら大変なものです。二百有余の中で形と云つて居ないのは五所川原の十三塚だけであると学会でも非常に注目して居るところであります。この場所は梵珠山の馬神山のふもとで五町歩位の平地に、やつぱり右に六つ左に六つ真中に大きいのが一つあつて、昔弘法大師が昼の時間を光明の世界と十三時間を仏に直し、又弘法にもつて来て十三仏と名付けたもので、仏教の信者の信仰の一つとなつたもので、十三塚を信じる和尚さんは相当偉い人ですね。ゆるさなかつたといわれて居ります。次は交通上の問題からみた、当市の発展策についてお話しして戴きたいと思つて居ります。

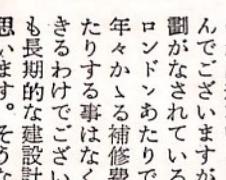
嗟嘆 道路整備の事については昨年の博覧会には特別に痛感しました。観光客は沢山あるのに道路が悪いので自動車が思うように走れないために運行回数も少なくなつて観光客が来れなかつたという実例も沢山あつたわけでございます。さき程中谷さんが、いわれた青森五所川原間の道路ですが、先般県では青森、金木の作業道路を大きく取り上げておりましたので、それができる事によつて五所川原としましては運動を進める飛躍台となつて非常に好都合な訳でございます。



中谷 青森、五所川原間のバス道路ができることによつてこの間の時間も一時間は短縮されるし、これが私共の日常生活に直接ひびいてくる事になります。

森 私の場合は田舎道が多いので全く悪い、市の発展は道路の改修がその根幹をなすといはれて居りますが、市の予算を重点的に道路にもつて来て積極的に修理してほしその県道については、極力県当局に陳情してほしと思つて居ります。

佐々木 色々話しがはすみましたが、町制施行年学校、道路の問題もそうでございますが日本の計画の事業が非常に短期間に組まれて居るのでございまして、それで道路にしても、これは直して、直してはこれと云つた具合で、いつか完全に出来ぬものが出て来ないような状態です。私は行つた事はないのでございまして欧米の例をみると非常に長期の計画がなされて居る訳でございます。ロンドンあたりでも三十年か五十年と云う具合で年々かかる補修費もなく済み、焼きたり、これたりする事はなく非常に経済的で完ぺきなものが出来るわけでございます。ですから市役所としましては長期的な建設計画をやつたらいいんじゃないかと思つて居ります。そうなるかと私達が生きて居るうちにその結果はみられないだろうか。



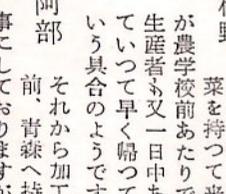
阿部 なか／＼長年月ですね、変ですから極力長期計画でもかまいませんから補修に努めてもらいたいですね。

司会 なんだか市の議会同様に居りましたが次は一つこの商業問題について話を進めてゆきたいと思つて居ります。幸い商工会議所の専務さんもお出になつて居る事ですし、皆さん方も地区の代表であるので、この機会を利用して、特に今後の五所川原市発展の商業政策の根本的あり方についてご意見を伺ひたいと思つて居ります。皆さんもそれについてお話ししていただければいいんじゃないかと思つて居ります。嗟嘆さんどうぞ。

嗟嘆 五所川原市として一番困る事は競争のはげしい事ではなからうかと思つて居ります。停車場から直前の昭和二十年からその経営者は場所と云え、商店のかざりつけと云え、あまり変化がないんです。やはり時代の進化と共に色々と店がまゐりそれに即応したものを考えなければいけないんじゃないかと思つて居ります。

松野 七和、梅沢方面は相当手広くしかも合理的に蔬菜を作つて居る、ところが農繁期になつて特にこの方面では水田と、りんごが両方大変忙しい時期なんです。それを背中に背負つて市内まで運んでくるのは大変なものです。労働の問題も勿論ですが、価格の面、鮮度の面について一考を要する事だと思つて居ります。そこで市内に魚菜市場ができる事になれば、朝早くのうちに地区毎の農協組に生産者が、その蔬菜物を選んで行つて、魚菜市場の方から三輪車かトラックで集荷に来る一方又魚類のような農家で日常使うものを市場の方から農協組に持つて来て呉れるという具合にするのだから...

松野 やはり野菜の最盛期になるとリヤカーや背中で運んだ人では、鮮度の問題もありますので機動力を利用してなるべく鮮度の高いものを皆さんにたべてもらわなければならぬと思つて居ります。



阿部 それから加工の事ですが、果物があまると私事にして居りますが、五所川原あたりにも、この工場があつてよいんじゃないかと思つて居りますが、マトなんかでも、食べれないようなものでも、加工場を持つて行くのでは一向に差つかないと思うんですね。

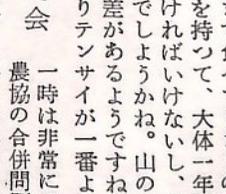
松野 五所川原の生産者は、大量生産の場合には五所川原に持つて行かず、弘前、青森へ持つて行つてしまふ、又青森あたりからも品物を自動車で行つて来てくれるから、いきなり五所川原には持つて行かない事になるんじゃないですか。

司会 それでは商業問題はこの程度にして次は農業の問題についてお話ししたいと思います。特に青年団代表の方に農業問題についてはごけん、研究もつて居る事と思つて居ります。皆さんのご意見を伺ひたいと思つて居ります。

奈良 農業あつての商業商業あつての農業という具合に密接な関係があるもので農家の生活が苦しくなれば町の買物もなくなり農家が富めば商業も立ち上り互に助けあつて生活の向上を図らなければならぬ事は言をまたないが私達は、農と商の課長でございますから農も商も仲良くお願い致します。

小山 市役所の方で副業奨励の意味でどん／＼農林漁業資金でも借りて、養豚、養鶏、薬工品でもやる資金融資する気構はないものでしょうかね。副業を盛んにする気は充分なわけではございませんが、何分にも豚や鶏を買つて皆様にあげて飼育させるだけの予算もないわけではございません。しかし今後副業の奨励には何が一番適当かを考えて極力奨励して行きたいと思つて居ります。現在市内の副業としては養豚ですが、養豚は五分とさかんになつたもので市内だけでも十四ヶ所の養豚組合があるという事だけでも自慢してよいんじゃないかと思つて居ります。

阿部 コンニヤクイモは私の家でも植えて見ましたけれども、全々駄目でした、一反歩十万円なんてとんでもない事です、止した方がよいんじゃないでしょうか。



奈良 ああそうですか、それはよい事を聞きまして私共も十年ばかり乳牛をやりましたが、夏分はよいとしましても冬分になると、夏分のもので食べてしまふので、やつぱりある程度のサイロを持つて、大体一年間に食べる量を獲得しておかなければいけないし、冬期間に食べる量は四十五位でしようかね。山のものと畑のものでは大分乳量に差があるようですね、生活環境もあるだろうがやはりテンサイが一番よいんじゃないですか。

司会 一時は非常に機がじゅくして居たようだが、農協の合併問題はどうなつて居るでしょうか。中谷さんからの後の飯詰問題はどうかお聞き願ひませんか。

中谷(彌) 飯詰、同第一農協を私課長時代に取上げ不調に終りました。北榮と栄の両声も出たりはしたがやはり駄目らしいですね、資産の面と経済的に、目下の段階では無理らしいですね、お互にゆづりあつて合併すべきなんですがね。県信連の沼山吉助氏は、よい組合には一億円や、二億の融資をして林子の加工場を作つてやつてもよいと云つて居るんですが、それも帰するところは合併が先決問題だらうね、青森林業もこんなに、たたかかれたんでは、生の子でちよつと考えさせられませぬ、加工をしてしかも立派な製品を作れないものでしょうかね。

長尾 市役所でのこの種の加工場を作つて経営出来ないのでしょうかね。

司会 私先程から申し上げて居りましたが、市といたしましては相当手広く失業対策の事業を行つて居る訳でございます。現在予算五百五十万円、毎日四十名から五十名の入夫が出て仕事をしております。

